特定非営利活動法人
東京学芸大こども未来研究所
Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

TECH未来通信

2022.JUL
VOL.051

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方（その31 ）

愛知県でのTECH未来

今回は、愛知教育大学附属名古屋中学校の戸苅祥崇（とがりよしたか）先生にお話を伺いました。

戸苅先生は、今年度のTECH未来活用力コンテストにもご応募くださっています！そんな戸苅先生にインタビューしてきました。

－現在、教員何年目ですか？

教員12年目です。名古屋市内の中学校で10年勤務した後、本校で働くことになりました。

－TECH未来を使用して何年目ですか？

4年目です。

－具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか？

昨年度は、「技術の見方・考え方」である社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性から学校に設置するエレベータを最適化させることを目的とした授業を行いました。授業では、2種類の特徴の異なったエレベータモデルを比較することで、歯車の組み合わせや電池の数の違いが「乗車人数や上昇・下降時間」「エレベータの揺れ」に影響することや、「歯車の組み合わせの複雑さがエネルギー損失につながる」等の様々な事を考える姿が見られました。そして、モデルの比較から学んだことや教師が設定したTECH未来のパーツの値段を基に、生徒それぞれが最適なエレベータ製作を行うことができました。

－活用力コンテストへ参加されてみていかがでしたか？（生徒さんの反応など）

生徒は、自分で決めた問題を解決するためにーからパーツを組み合わせて積極的に活動に取り組んでいました。しかし、うまくいかず作業が捗らず場面も多々ありましたが、「こうすればいいんじゃない？」等と仲間と話し合って前に進む姿が見られました。そして、うまくいったときの歓声や他の班の生徒が見にくる姿はとても見ていて素敵な雰囲気でした。また、朝や昼の少しの時間にも関わらず加工室に来て作業に取り組む姿やクラス内での製作品の発表会で生き生きと取り組んでいる姿が印象に残っています。活用力コンテストを通して、一人一人が小さなエンジニアとして夢中に活動に取り組み、たくさんの学びがあったように感じました。

－今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか？

生徒の中から、電気自動車製作を行いたいという声が挙がっています。電気自動車を走らせる場面や場所といった条件を設定し、問題解決学習を行わせていきたいです。

編集後記

私事ですが、出身地である名古屋でTECH未来が広がっていくことが非常に嬉しいです！これからも授業実践楽しみにしております！